

津島市巡回バス等（公共交通）検討支援業務

序章. 調査の目的

1. 調査の目的

津島市の公共交通の実態や先進事例等を把握し、地域公共交通に係る現状について分析して、今後の津島市巡回バス（以下、「ふれあいバス」という。）の位置づけについて整理したうえで、ルート改正や車両の見直しを含め、津島市における公共交通の最適な課題解決策を立案することを目的とする。

2. 調査の項目

本調査では、下記の業務について実施した。

（1）公共交通に関する基礎調査

- 上位関連計画の策定状況
- 津島市内に提供されている移動サービスの実態について
- 主要目的施設の分布状況
- 周辺自治体の実態調査

（2）ネットワーク形成に関する調査

- ネットワークの状況について
- 交通空白地調査
- 小学校区単位でのサービス満足度（市民意識調査結果）

（3）セグメント別にみたサービス評価に関する調査

- 利用対象者をセグメントした移動サービスの提供状況
- 年齢世代別に着目した交通サービスの満足度（市民意識調査結果）
- グループインタビュー調査

（4）津島市の公共交通サービスに関する課題抽出

- 前述の検討をふまえた課題抽出

（5）実現可能な津島市巡回バスの課題解決策の立案

- 公共交通の課題整理
- 先行事例調査
- 財政支出シミュレーション検討
- 地区別ワークショップ
- 対応方針の検討
- 課題解決策のとりまとめ

第1章. 公共交通に関する基礎調査

1. 公共交通に関する上位関連計画について

津島市における公共交通に関する上位関連計画としては、下記がある。それぞれの公共交通サービスに関する位置づけを確認した。

- 第5次津島市総合計画
- 津島市都市計画マスタープラン
- 津島市立地適正化計画

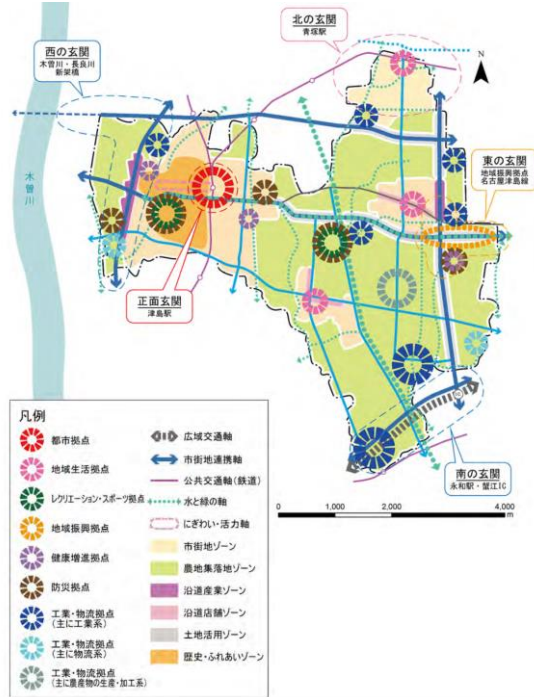
(1) 第5次津島市総合計画

第5次津島市総合計画での将来都市像、公共交通の方向性は次のとおり。

策定日	令和3年(2021)9月		
計画期間	令和3年(2021)度～令和12年(2030)度の10年		
将来都市像	～未来につなぐ～ 住んでみたい 住んでよかったまち 津島		
目標人口	56,600人～59,500人を展望(令和12年:2030) (現状:2015年時点 63,431人)		
分野横断型まちづくり(戦略)	<p>戦略2 まちの活力を高め、人の流れをつくる</p> <p>○交通ネットワークの充実</p> <p>都市機能や生活サービス機能を集約する拠点を中心に、公共交通や道路などで結ぶ総合的な交通ネットワークの充実を図るとともに、まちなかの移動を快適にする歩行環境の整備などを進める。</p>		
分野別計画 公共交通	○施策の目指す姿		
	・それぞれの目的や行先に応じて、最適な移動手段で、安心して快適に移動することができるようになっている。		
	○まちづくり指標		
	指標	現状 2019	目標 2030
	公共交通の利便性の向上に満足している市民の割合(%)	15.2	28.0
	ふれあいバスを利用している市民の割合(%)	21.5	30.0
	○施策の方針		
	・交通ネットワークとモビリティサービスの充実		
	・コミュニティバスの利用促進		
	・広域的な交通ネットワークの形成		

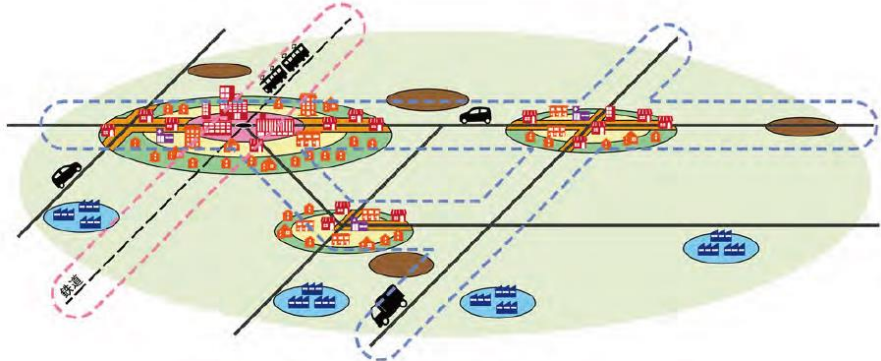
(2) 津島市都市計画マスタープラン

津島市都市計画マスタープランでの将来都市構造図、公共交通の整備方針は次のとおり。

策定日	令和3年(2021)12月		
計画期間	令和3年(2021)度～令和12年(2030)の約10年		
都市の将来像	“多様な主体によって、暮らす・楽しむ・働く「場」を創る” 暮らしを楽しみ、誇りと愛着を感じ、そして選ばれるまち つしま		
将来都市構造図			
都市軸の設定	公共交通軸（鉄道） 尾西線、津島線により市内外の多くの人の移動を支える公共交通の軸		
公共交通等の整備方針 （鉄道・バス）	<p>○人口減少や高齢化社会の進展等、社会情勢の変化を注視しつつ、公共交通機関や徒歩・自転車を中心に快適に移動できる交通環境を図るため、鉄道、路線バス、ふれあいバスなどの公共交通機関の連携強化を図り、サービス水準が向上された公共交通ネットワークを形成する。</p> <p>○ふれあいバスについては、名鉄バス路線と相互に補完し、近隣自治体にある鉄道駅等への乗り入れも含め、便利で使いやすい公共交通ネットワークの実現を推進する。また、バス停と一体となったポケットパーク・駐輪場等の整備、ソフト施策の充実に向けた検討を行う。</p>		
評価指標 公共交通関係	指標	現状 2019	目標 2030
	総人口に対するバス停カバー圏域人口の割合 (%)	72.8	72.8 現状維持
	公共交通の利便性の向上に満足している市民の割合 (%)	15.2	28.0

(3) 津島市立地適正化計画

津島市立地適正化計画の将来都市構造図、公共交通の整備方針は次のとおり。

策定日	令和4年(2022)3月
計画期間	令和4年(2023)度～令和22年(2040)の約20年
まちづくりの方針(交通)	<p>○都市拠点や都市機能に誰もがアクセスできる公共交通ネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの市街化区域間を快適で便利に、そして円滑に移動できるとともに、居住誘導区域外に住む市民の生活を維持するため公共交通施策を推進する。
公共交通の方針	<p>○都市拠点や都市機能に誰もがアクセスできる公共交通ネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の誰もが気軽に安全で、また快適に各拠点や公共施設等に移動できる公共交通体系を形成する。 ・多様な移動手段の組み合わせによって快適に移動サービスを提供するMaaSについても検討する。 
評価指標 公共交通関係	<p>津島駅の乗車人員 現状値 2,572,053人 → 目標値 3,000,000人(2040年)</p>

2. 津島市内に提供されている移動サービスの実態について

津島市内に提供されている移動サービスの実態について確認した。

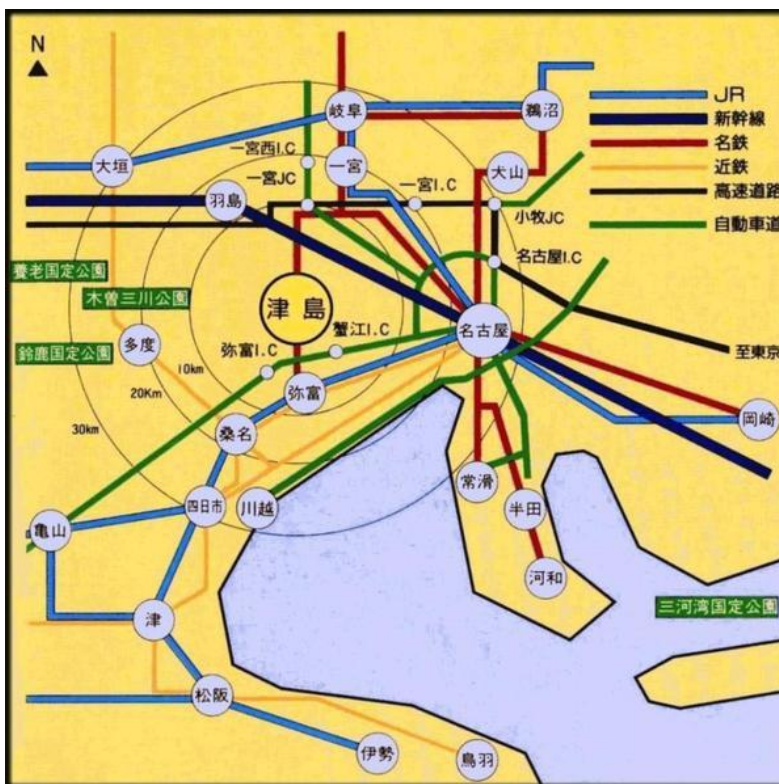
モード	対象	ルート等（津島市の範囲内）
鉄道	名古屋鉄道	津島線・尾西線
	J R	関西本線（永和駅） ※
路線バス	名鉄バス	津島線・岩塚線
コミュニティバス	ふれあいバス	4ルート
その他	おでかけタクシー	高齢者（75歳以上）、障がい者、妊産婦
	福祉タクシー料金助成事業	障がい者、戦傷病者等
	その他民間サービス	移動制約者向け民間サービス （移動販売車など）

※JR 永和駅は愛西市内。

（1）鉄道のサービス状況

津島市内には、名古屋鉄道（津島線・尾西線）が通過している。

また、津島市南部に JR 関西本線（永和駅）が通過している。



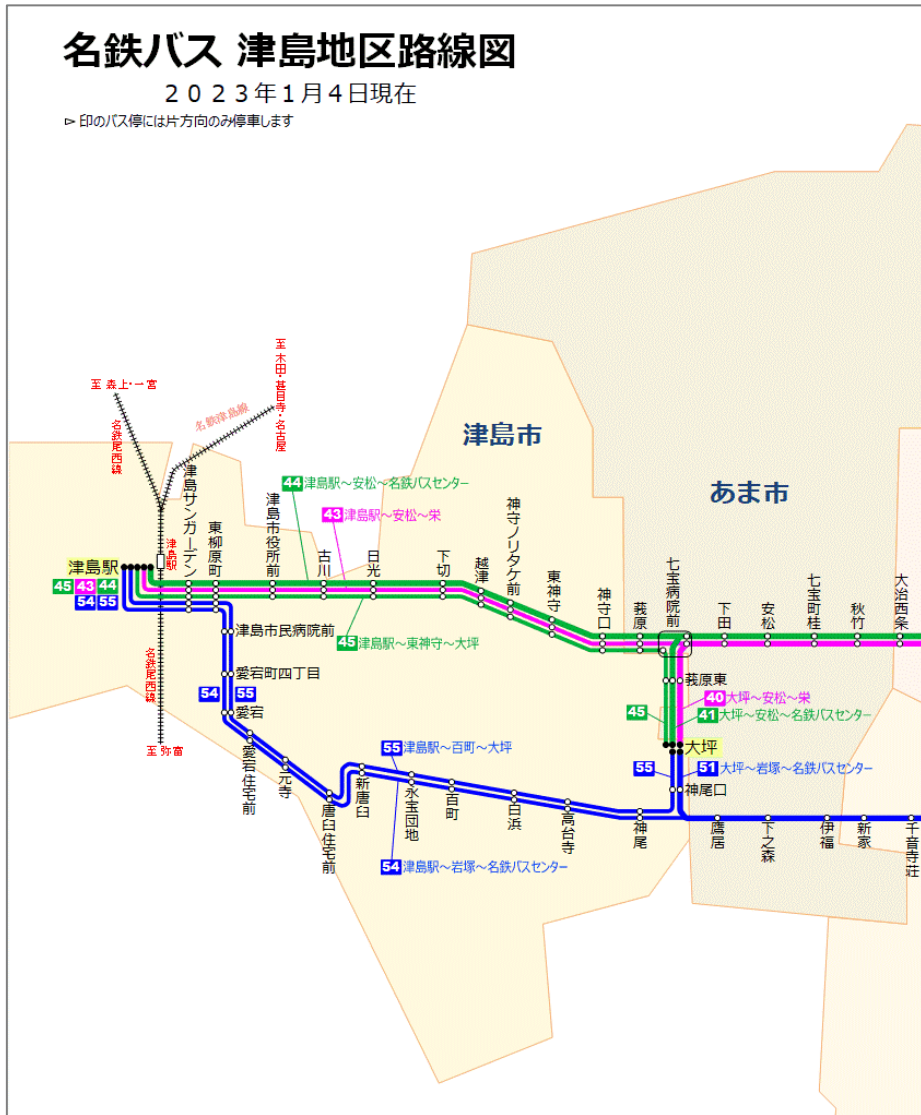
資料：津島市ホームページ（津島までのアクセス）より

(2) 路線バス

名鉄バスについては、津島線・岩塚線の2系統が運行されている。

津島駅を起終点とする津島線（43-45）系統は、平日1日、40便の運行があり、時間当たり2-3便程度の運行がある。

岩塚線（54-55）系統は、平日1日、16便の運行があり、時間当たり1便程度の運行となっている。



資料：名鉄バスホームページ（バス路線図（津島地区））より

○名鉄バス・津島駅発の時刻表

津島線：43/44/45 系統 岩塚線：54/55 系統

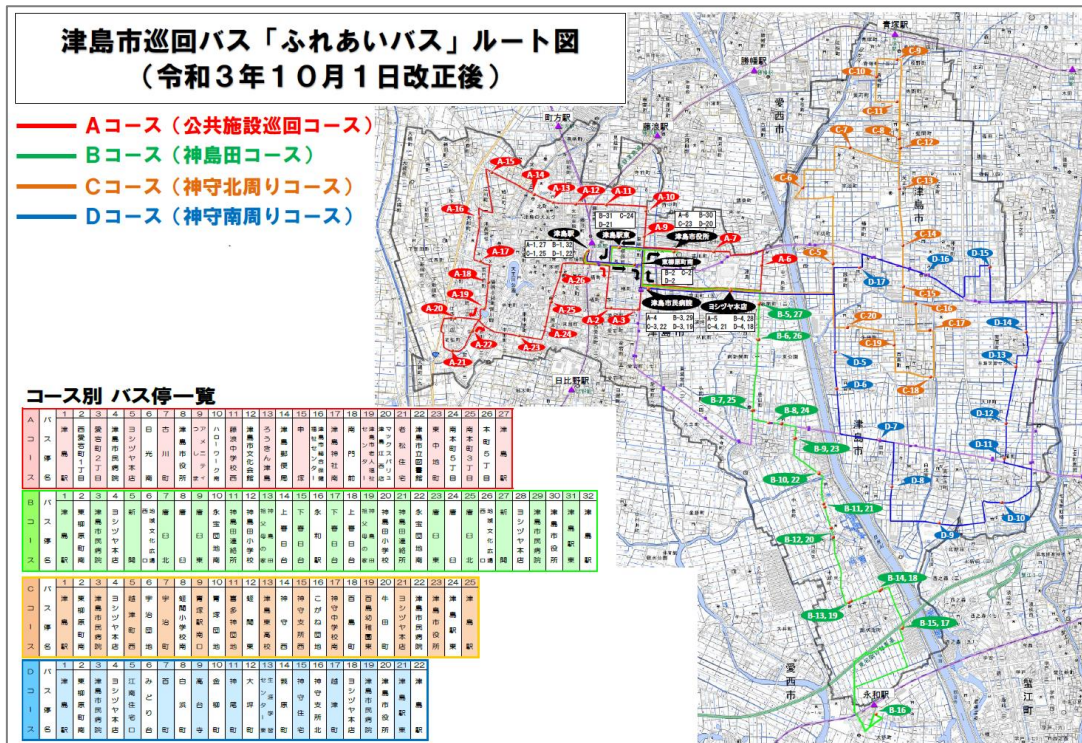
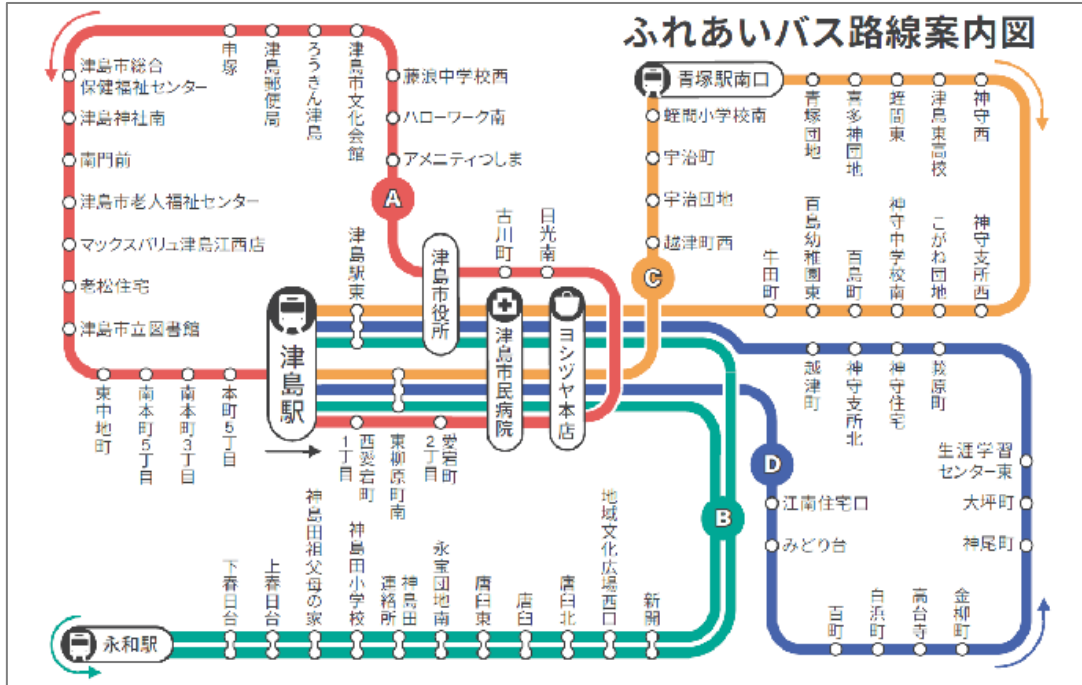
平 日 (月～金)					
系統	4 3	4 4	4 5	5 4	5 5
行先	栄	名鉄バスセンター	大坪	名鉄バスセンター	大坪
経由	東神守 安松	東神守 安松	東神守	百町 地下鉄岩塚	百町
4					
5		52			
6	31 55	11 41		21	
7	20	05 33 48		02 42	
8	03	21 44		12 47	
9	24	04 44		22	
10		08 38		22	
11		08 38		52	
12		08			
13		08			
14		08 38		22	
15		08 38		22	
16	08	38		22	
17	03 43	23		19	
18	23	03 43		19	
19	36	16		22	
20		15 45		22	
21		15 45			12
22			28		
23					
24					

資料：名鉄バスホームページ（時刻表検索）より

(3) コミュニティバス

津島市のコミュニティバス「ふれあいバス」は、日曜日・年末年始の運休を除き、月曜日から土曜日の祝日を含む週6日運行している。

料金は、1乗車100円、小学生以下は無料。路線図は、下記のとおり。



資料：津島市ホームページより

○ふれあいバスの利用実態・市負担額の推移

ふれあいバスの利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響前は順調に増加していたが、一旦減少し、直近では回復してきている。ただし、ピーク時の数字までは回復していない。市の負担額は、利用者数の裏返しで、直近では減少傾向にある。

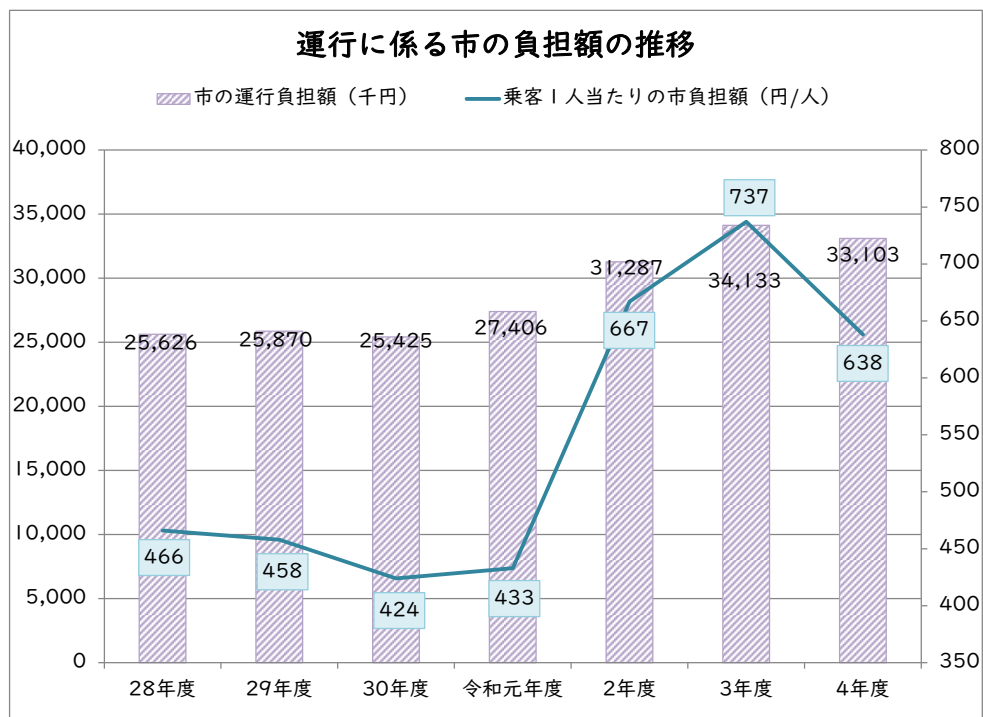
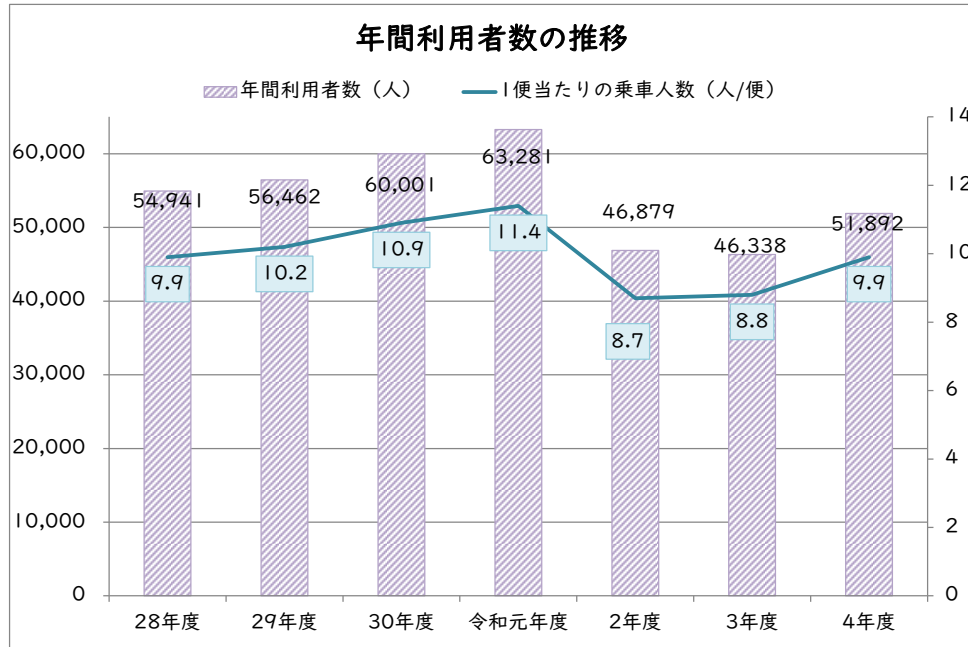


表 ふれあいバスの利用者数の推移・市の運行負担額等の推移

項目	期間	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		(H28.4.1 ~H29.3.31)	(H29.4.1 ~H30.3.31)	(H30.4.1 ~H31.3.31)	(H31.4.1 ~R2.3.31)	(R2.4.1 ~R3.3.31)	(R3.4.1 ~R4.3.31)	(R3.4.1 ~R4.3.31)
①運行日数		308日	308日	307日	309日	308日	308日	308日
②運行本数		5,544本	5,544本	5,522本	5,553本	5,393本	5,236本	5,236本
(運休本数)				4本	9本			
③年間利用者数		54,941人	56,462人	60,001人	63,281人	46,879人	46,338人	51,892人
④運行経費 (運行契約金額)		30,519,104円	30,804,928円	30,780,127円	32,777,715円	35,038,321円	38,644,918円	38,587,780円
⑤運賃収入		4,892,900円	5,022,800円	5,355,000円	5,646,600円	4,236,000円	4,220,100円	4,752,200円
⑥その他収入		0円	38,880円	0円	321,200円	435,000円	292,050円	732,600円
			車均広告2,160円×3枠×3 月×2台		車体広告6,050円×4月×1 台、乗補助金	車体広告6,050円×(12月× 1台+8月×1台)、乗補助金	車体広告 後：6,050円×12月×2 左右：48,950円×3月	車体広告 後：6,050円×12月×2 左右：48,950円×12月
⑦その他経費		0円	126,576円	0円	595,760円	920,160円	0円	0円
			停留所保守管理委託		停留所標識等作成	停留所整備委託、路線図作 成等		
⑧市の運行負担額 (④-⑤-⑥+⑦)		25,626,204円	25,869,824円	25,425,127円	27,405,675円	31,287,481円	34,132,768円	33,102,980円
⑨1日平均乗車人数 (③/①)		178.4人	183.3人	195.4人	204.8人	152.2人	150.4人	168.5人
⑩1便当たりの乗車人数 (③/②)		9.9人	10.2人	10.9人	11.4人	8.7人	8.8人	9.9人
⑪乗客1人当たりの運行経費 (④/③)		555円	546円	513円	518円	747円	834円	744円
⑫乗客1人当たりの市負担額 (⑧/③)		466円	458円	424円	433円	667円	737円	638円
⑬1日当たり市負担額 (2台分) (⑧/①)		83,202円	83,993円	82,818円	88,692円	101,583円	110,821円	107,477円

(4) その他の移動サービス

津島市でのその他の移動サービスとしては、下記がある。

① おでかけタクシー

事業目的	高齢者等の通院や買い物などの日常的な外出を支援するサービス。
利用開始日	令和5年1月10日
対象者	高齢者（75歳以上） 障がい者（身体障害者手帳1～3級、療育手帳A・B判定、精神障害者保健福祉手帳1・2級保持者） 妊産婦（妊婦及び出産後1年未満の産婦）
利用範囲	市内全域、JR永和駅・蟹江駅
利用時間	8:30～19:00（土曜・日曜・祝日も利用可能）
負担額	「タクシー運賃+迎車料金」の半額（10円未満切り上げ）
事業者	市と契約を締結したタクシー事業者（名鉄西部交通(株)、日の丸タクシ(株)、(株)玉利タクシー、名古屋近鉄タクシー(株)）
利用方法	事前登録制、付き添い者の同乗可能、利用回数制限なし
所管課	健康福祉部 福祉課

おでかけタクシーの令和5年3月時点の累計利用登録者数は2,491人で、対象者数約12,400人に対して、約20%であり、今後も登録者数の増加・利用回数の増加が想定されるため、市の負担額は増加するものと思われる。

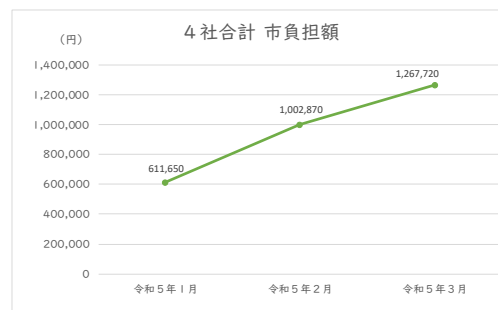
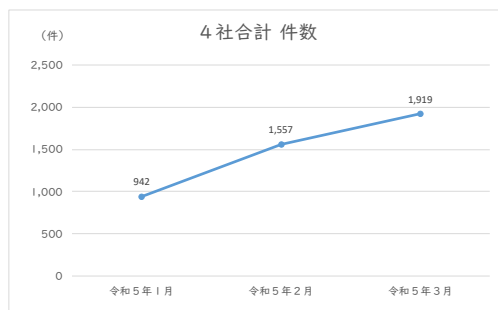
◆ 利用登録者数

	(人)			
	高齢者	障がい者	妊産婦	合計
令和4年11月	1,070	65	9	1,144
令和4年12月	555	28	4	587
令和5年1月	319	24	5	348
令和5年2月	198	17	4	219
令和5年3月	180	10	3	193
登録者累計	2,322	144	25	2,491

※対象者数：約12,400人（令和5年3月末現在）

◆ 利用実績

	(件、円)	
	4社合計	
	件数	市負担額
令和5年1月	942	611,650
令和5年2月	1,557	1,002,870
令和5年3月	1,919	1,267,720
利用実績累計	4,418	2,882,240



② 福祉タクシー料金助成事業

対象	身体障害者手帳 1 ～ 3 級、療育手帳 A ・ B 判定、精神障害者保健福祉手帳 1 ・ 2 級保持者 戦傷病者手帳特別項症～第 5 項症、被爆者健康手帳 の所持者
内容	タクシーを利用する場合、利用券 1 枚につき 500 円以内の助成
条件	年間 24 枚まで 乗車 1 回につき 2 枚まで利用可能
所管課	健康福祉部 福祉課

③ その他の主な民間サービス

タクシー	○障がい者割引 ・民間タクシー事業者において、障がい者手帳等の提示により、タクシー運賃 1 割引を行う。
買い物サービス	○移動スーパー ・商業施設（ヨシヅヤ）により、移動スーパー（とくし丸）のサービス提供を行う。津島市をカバーする店舗としては、ヨシヅヤ津島北テラス店が対応している。

3. 主要目的施設の分布状況について

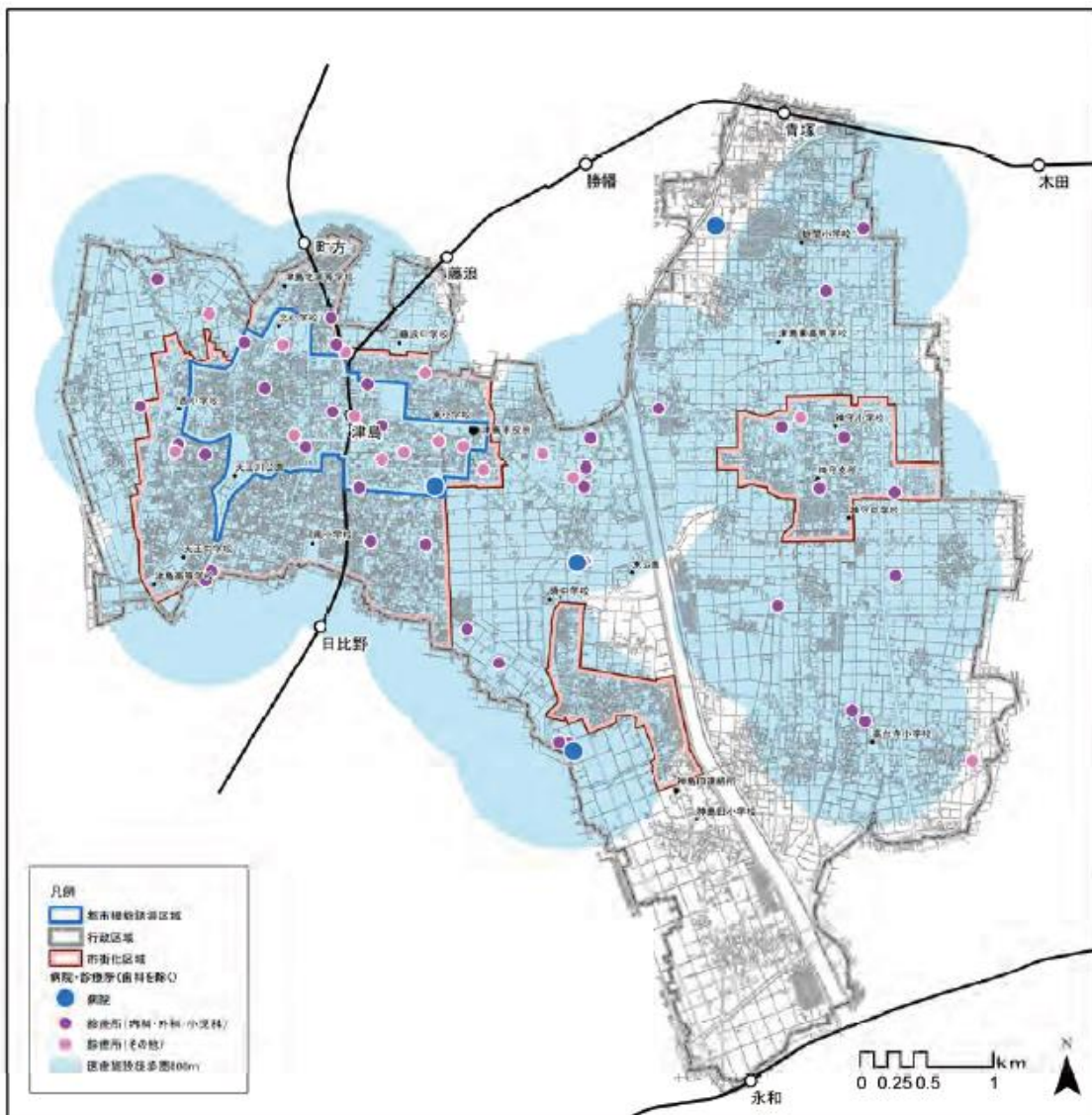
令和4年3月に報告されている「津島市立地適正化計画」において、医療施設、社会福祉施設、子育て支援施設、教育施設、文化施設、集会施設、商業施設、行政施設の都市機能の分布状況が整理されている。

立地適正化計画ではこれら施設を都市機能誘導施設として位置付けており、将来的には都心への誘導を進める計画となっている。ここでは、現状のこれら都市機能誘導施設の分布実態を確認した。

(1) 医療施設の分布

病床数20床以上を有する病院は4施設立地しており、そのうち都市機能誘導区域及び市街化区域の外側に3施設立地している。

都市機能誘導区域に1施設（津島市民病院）が立地しているため、都市機能誘導区域への移動サービスが確保できていれば医療施設へのアクセスは可能であるが、その他複数の診療所も区域外に立地しており、これら施設へアクセスできる移動サービスが望まれる。

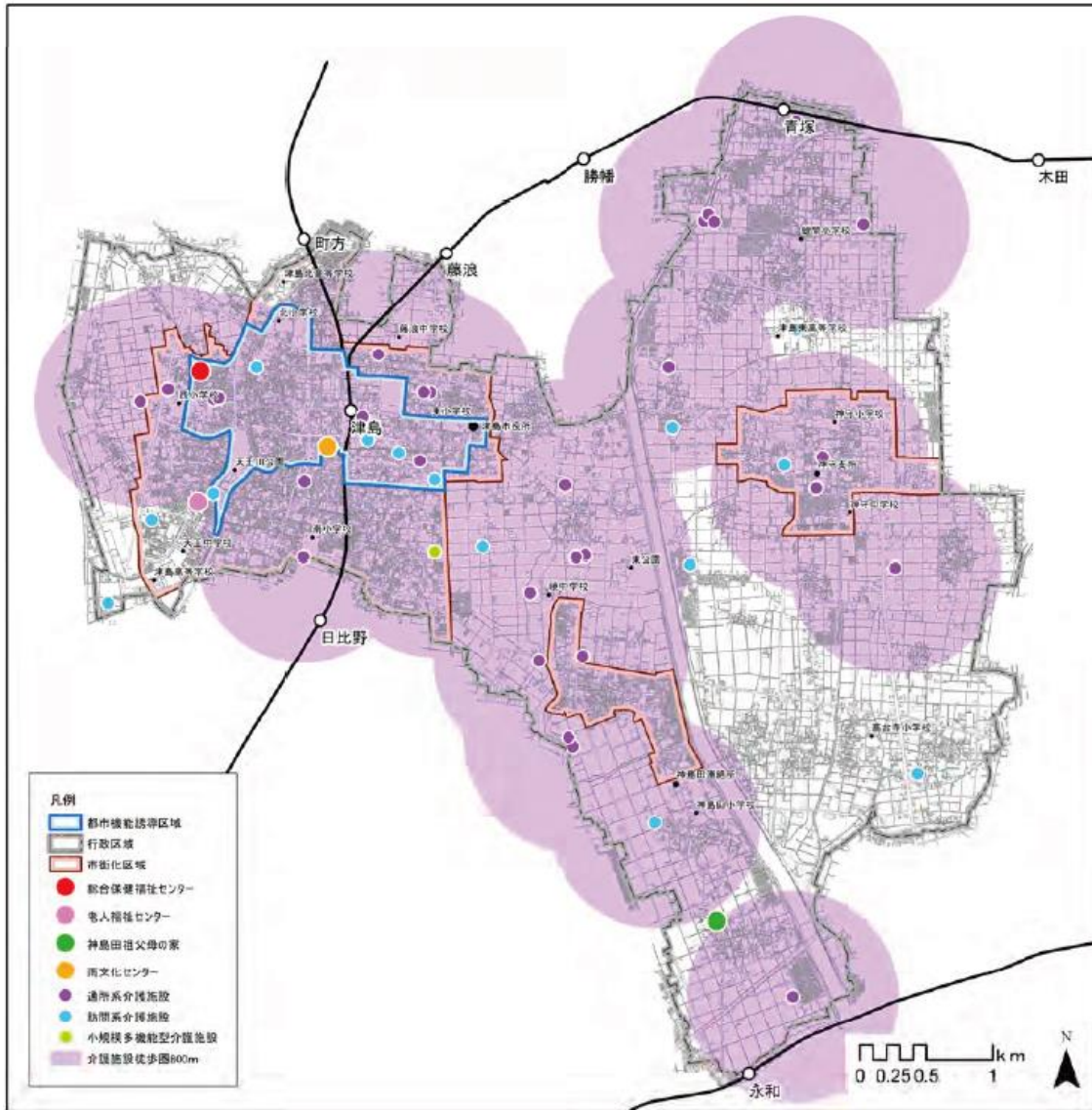


資料：津島市立地適正化計画より

(2) 社会福祉施設の分布

社会福祉施設のカテゴリーに入る「老人福祉センター」「神島田祖父母の家」「通所系介護施設」などの立地状況をみると、都市機能誘導区域及び市街化区域の外側に一部施設が立地している。

総合保健福祉センターが都市機能誘導区域内に立地しているため、都市機能誘導区域への移動サービスが確保できていれば社会福祉施設へのアクセスは可能である。また、施設での送迎サービスが一部で行われているものの、区域外に立地している施設利用ニーズに応えるにはアクセスできる移動サービスが望まれる。

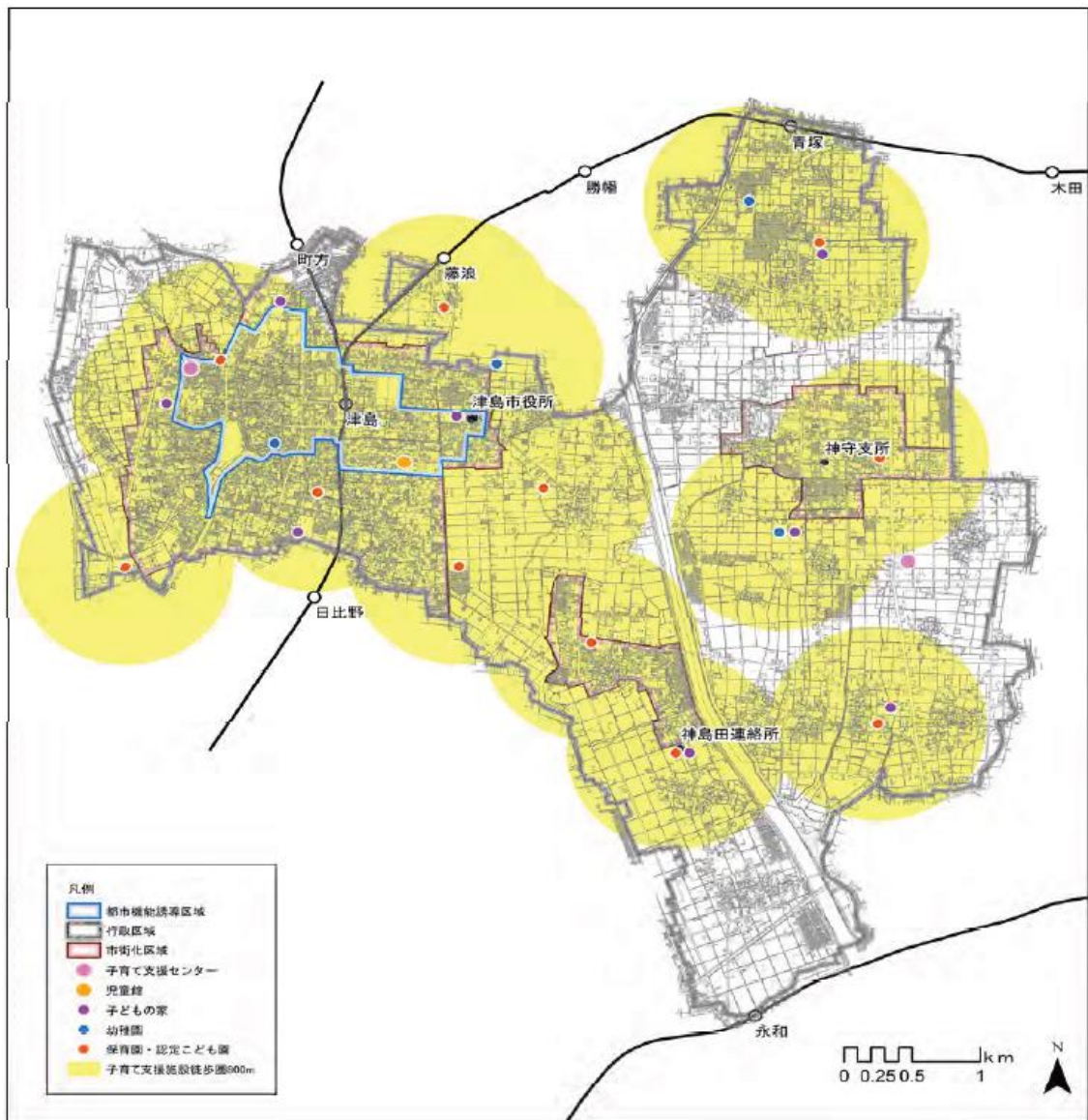


資料：津島市立地適正化計画より

(3) 子育て支援施設の分布

子育て支援施設のカテゴリーに入る「子育て支援センター」「子どもの家」などの立地状況をみると、都市機能誘導区域及び市街化区域の外側に一部施設が立地している。

子育て支援センターでは、自由来所・育児相談・親子交流・サークル支援などが行われており、自家用車利用以外の利用者でもアクセスニーズの可能性はある。都市機能誘導区域に子育て支援センターが立地しているので当該施設への移動サービスが確保できていれば子育て支援施設へのアクセスは可能であるものの、区域外に立地している身近な施設に対する利用ニーズに応えるには、アクセスできる移動サービスが望まれる。

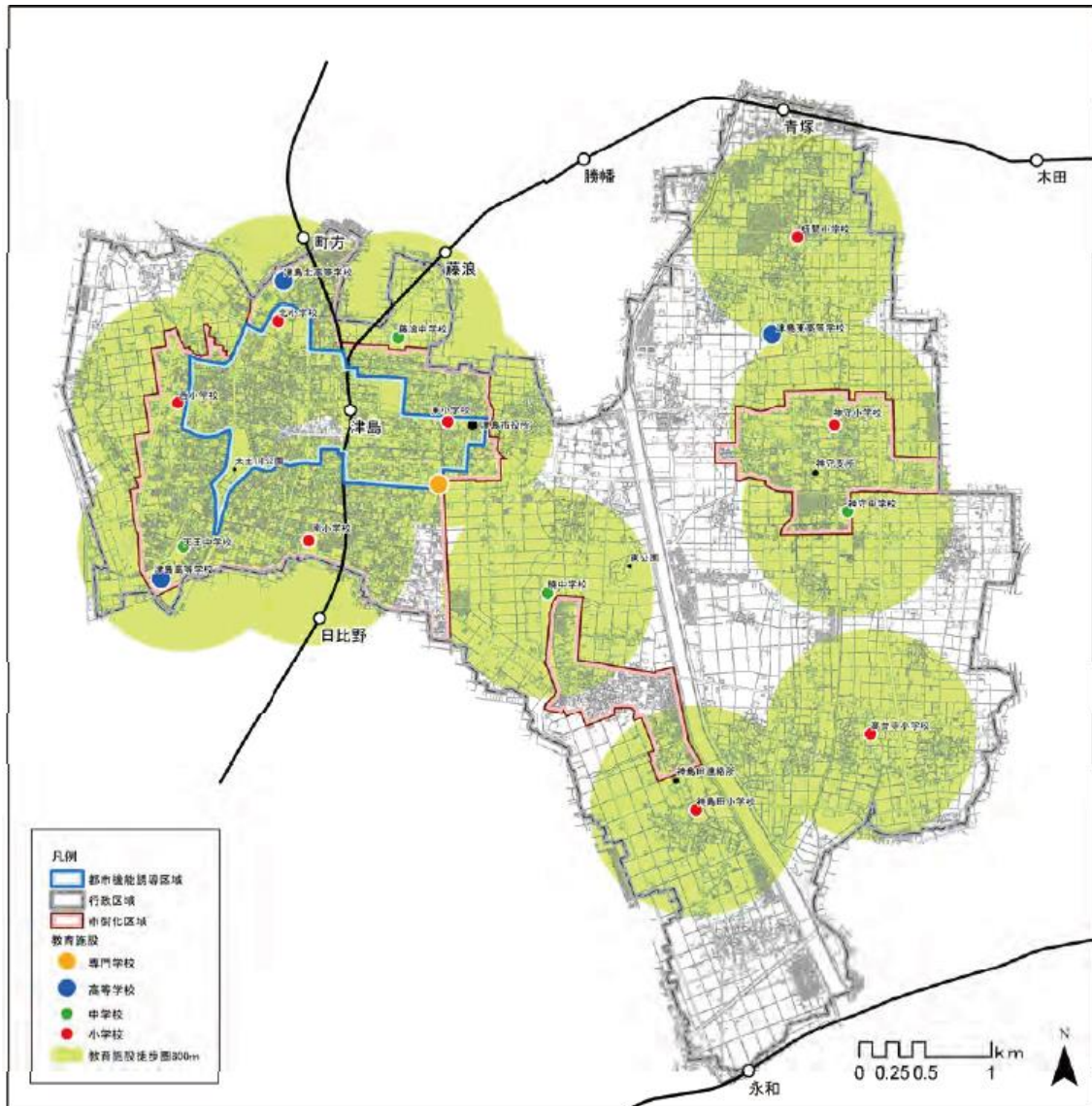


資料：津島市立地適正化計画より

(4) 教育施設の分布

教育施設のカテゴリーに入る「専門学校」「高等学校」などの立地状況をみると、都市機能誘導区域内に専門学校は立地しているが、高等学校は3校全て都市機能誘導区域の外側で、津島東高等学校は市街化区域の外側に立地している。

高等学校は、通学の安全性から、鉄道・路線バス等の接続が望まれる。

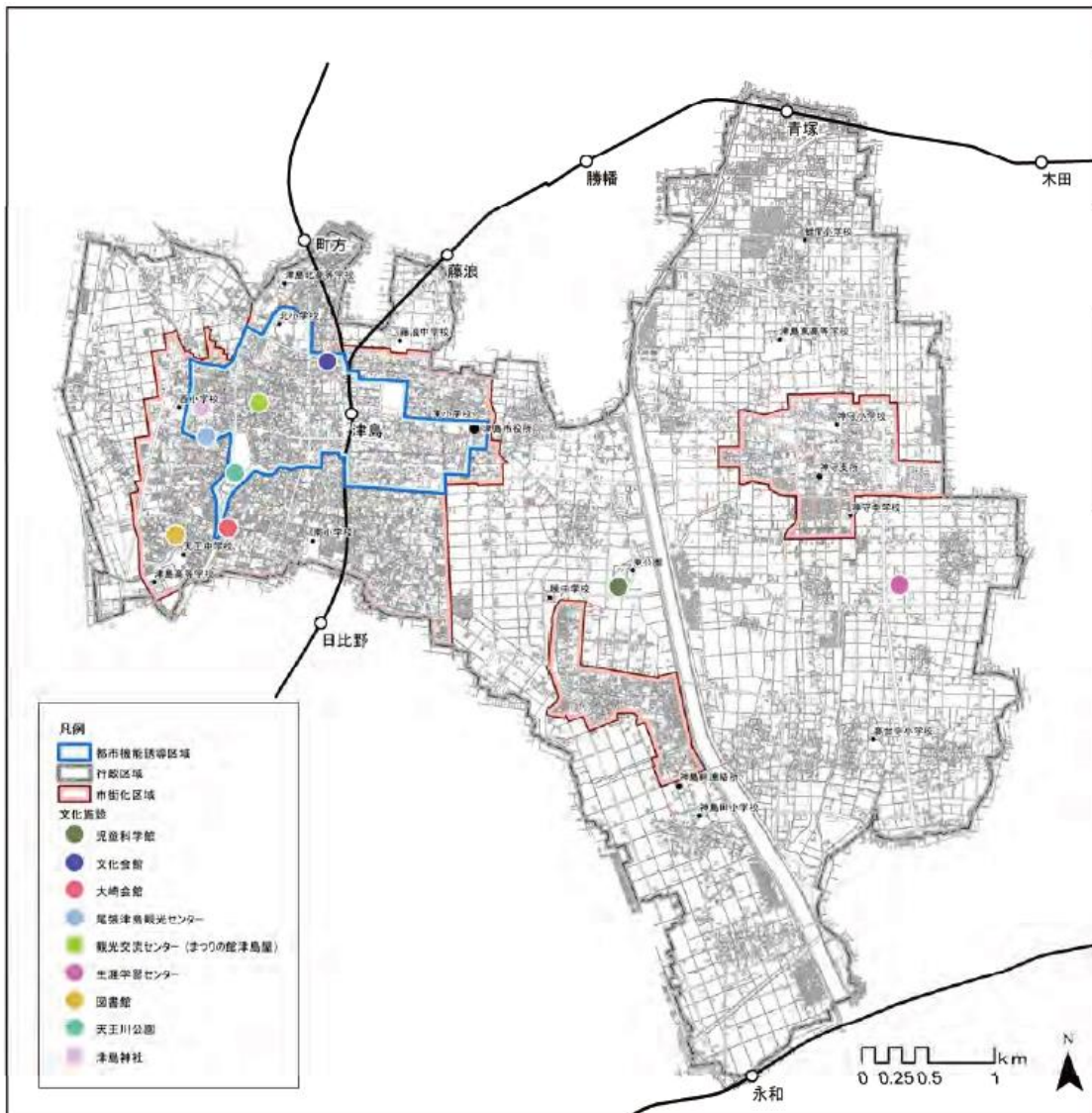


資料：津島市立地適正化計画より

(5) 文化施設の分布

文化施設の 카테고리に入る「児童科学館」「文化会館」「生涯学習センター」「図書館」などの立地状況をみると、児童科学館や生涯学習センターなどの一部施設が、都市機能誘導区域及び市街化区域の外側に立地している。

都市機能誘導区域の外側の図書館や生涯学習センターなどへアクセスできる移動サービスが望まれる。

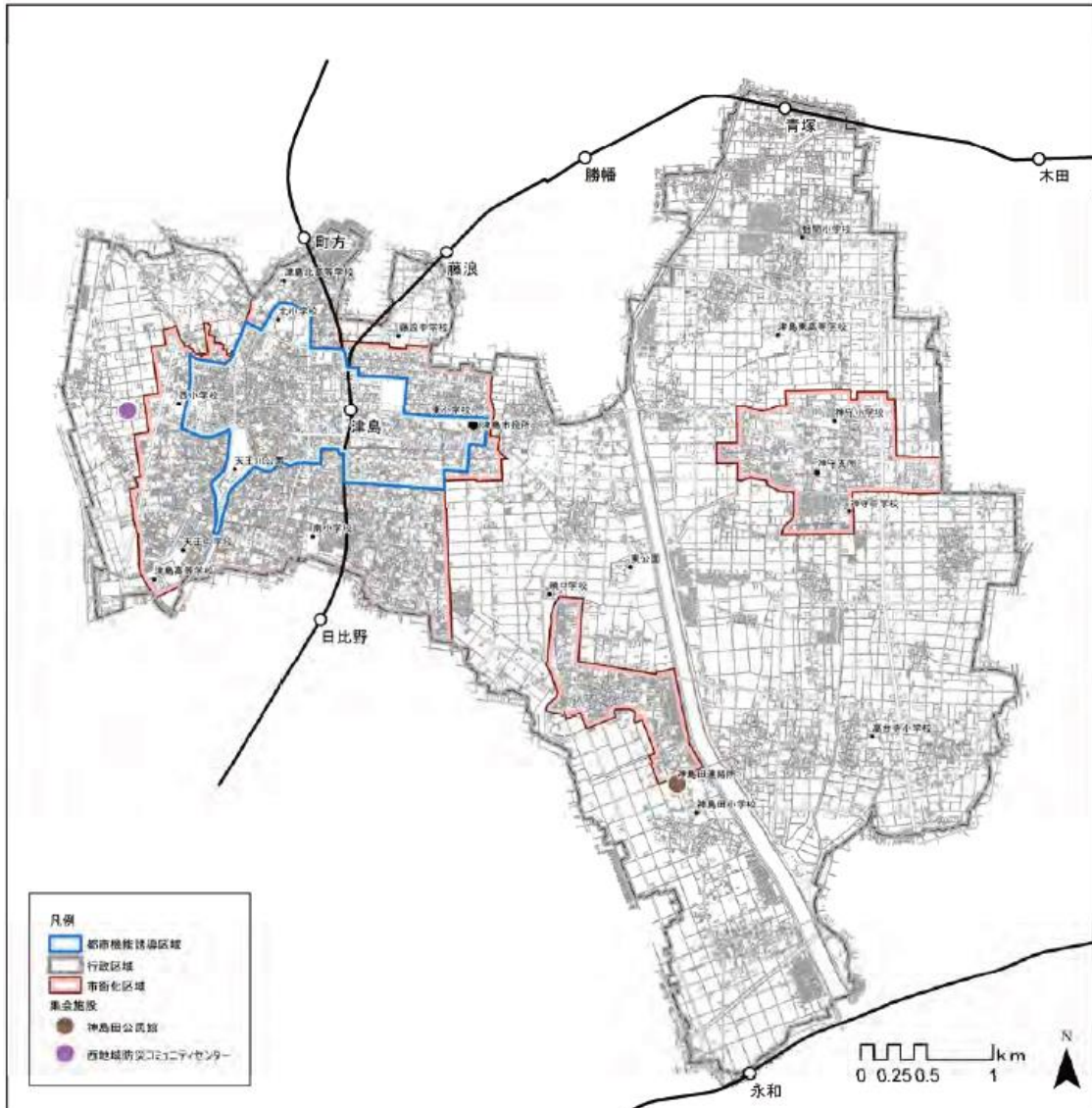


資料：津島市立地適正化計画より

(6) 集会施設の分布

集会施設のカテゴリーに入る施設としては「西地域防災コミュニティセンター」「神島田公民館」の2施設がある。

2施設ともに、都市機能誘導区域及び市街化区域の外側に立地している。2施設へアクセスできる移動サービスが望まれる。

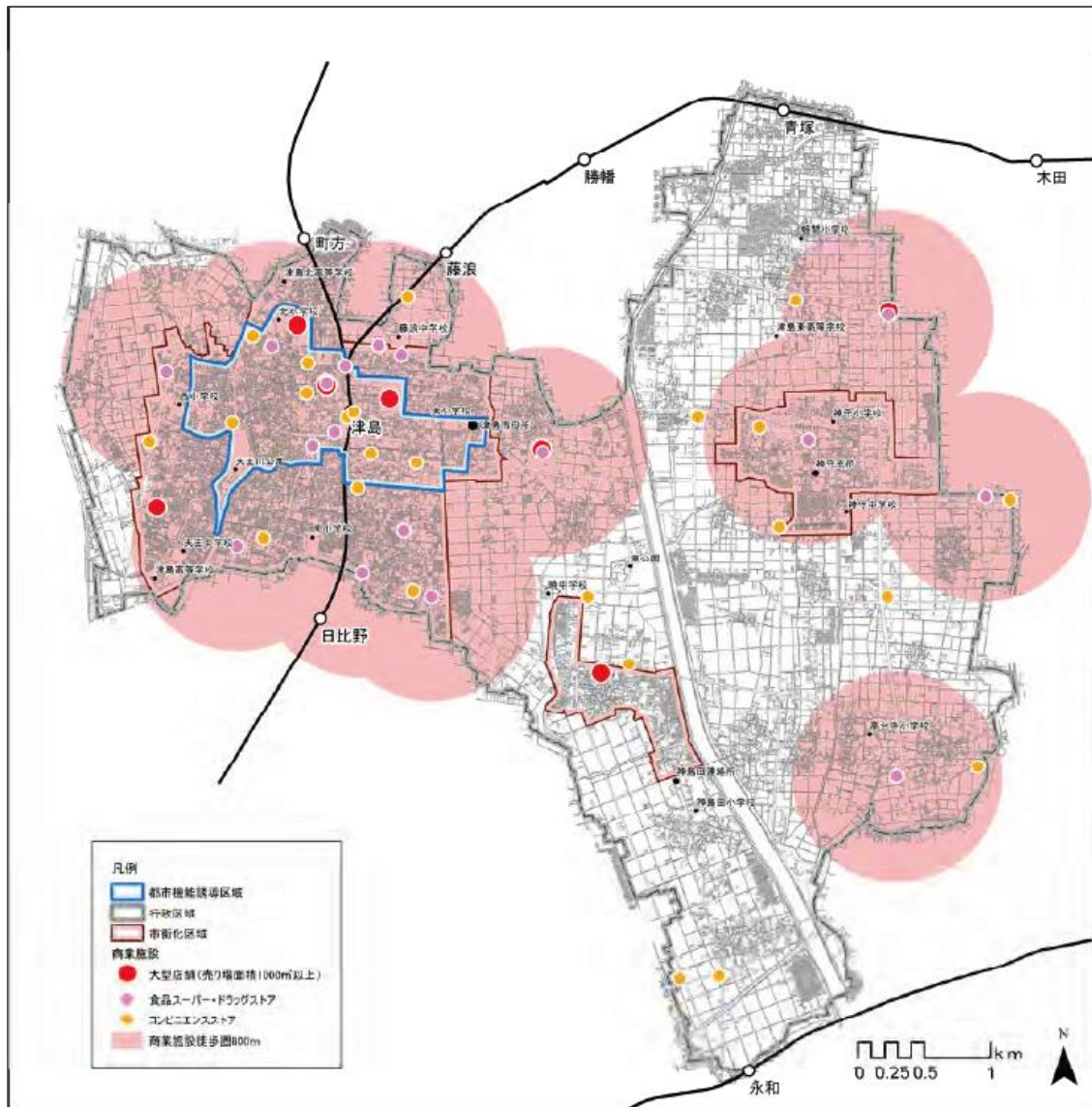


資料：津島市立地適正化計画より

(7) 商業施設の分布

商業施設のカテゴリーでは、大型店舗、食品スーパー、ドラッグストア、コンビニエンスストア等が対象で、その立地状況は下記のとおり。

最近では、一部商業施設で移動販売車によるサービス展開も行われるようになってきており、津島市全域がカバーされている。その一方で、買い物利用者の立場から、複数の商品を比較検討できる大型店舗へアクセスできる移動サービスが望まれる。

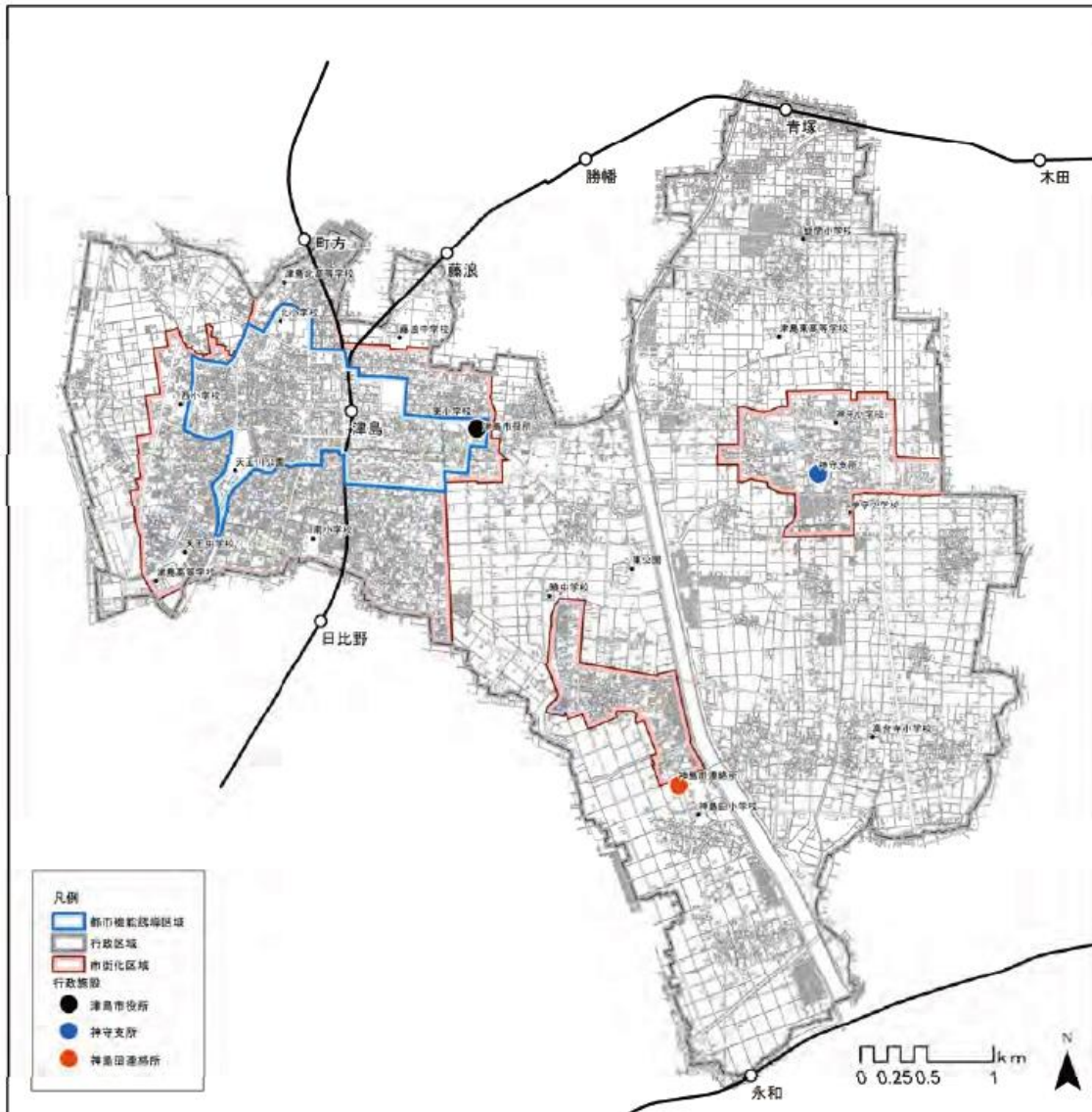


資料：津島市立地適正化計画より

(8) 行政施設の分布

行政施設については、都市機能誘導区域内の本庁機能となる津島市役所、分庁となる神守支所・神島田連絡所の3施設がある。

都市機能誘導区域・津島市役所への移動サービスが確保できていれば行政施設へのアクセスは可能であるものの、都市機能誘導区域の外側に立地している身近な分庁舎に対する利用ニーズに応えるには、アクセスできる移動サービスが望まれる。



資料：津島市立地適正化計画より

4. 周辺自治体の実態調査について

愛西市、あま市、蟹江町、海津市における公共交通サービスの実施状況について確認した。

	津島市	愛西市	あま市	蟹江町	海津市
市町村が主体となって乗合事業者 に運行委託している	○		○		○
市町村が無償で運送を行って いる		○		○	
市町村が特定の施設への送迎 目的で運行を行っている			○		○
隣接市町村に乗り入れている	○	○	○		○
地域公共交通会議の設置	○		○		○
高齢者に対する優遇措置			○		○

資料：愛知県都市・交通局交通対策課「愛知県内の市町村における自主運行バス等の運行状況について」（令和5年5月）より作成

注：海津市については、ホームページより

(1) 愛西市

○愛西市巡回バス

令和2年4月に現行路線に改定。無料、日曜・祝祭日・年末年始運休、月から土曜の週3日の運行となっている。佐織南ルートから、「津島市民病院」への接続・乗り入れが行われている。



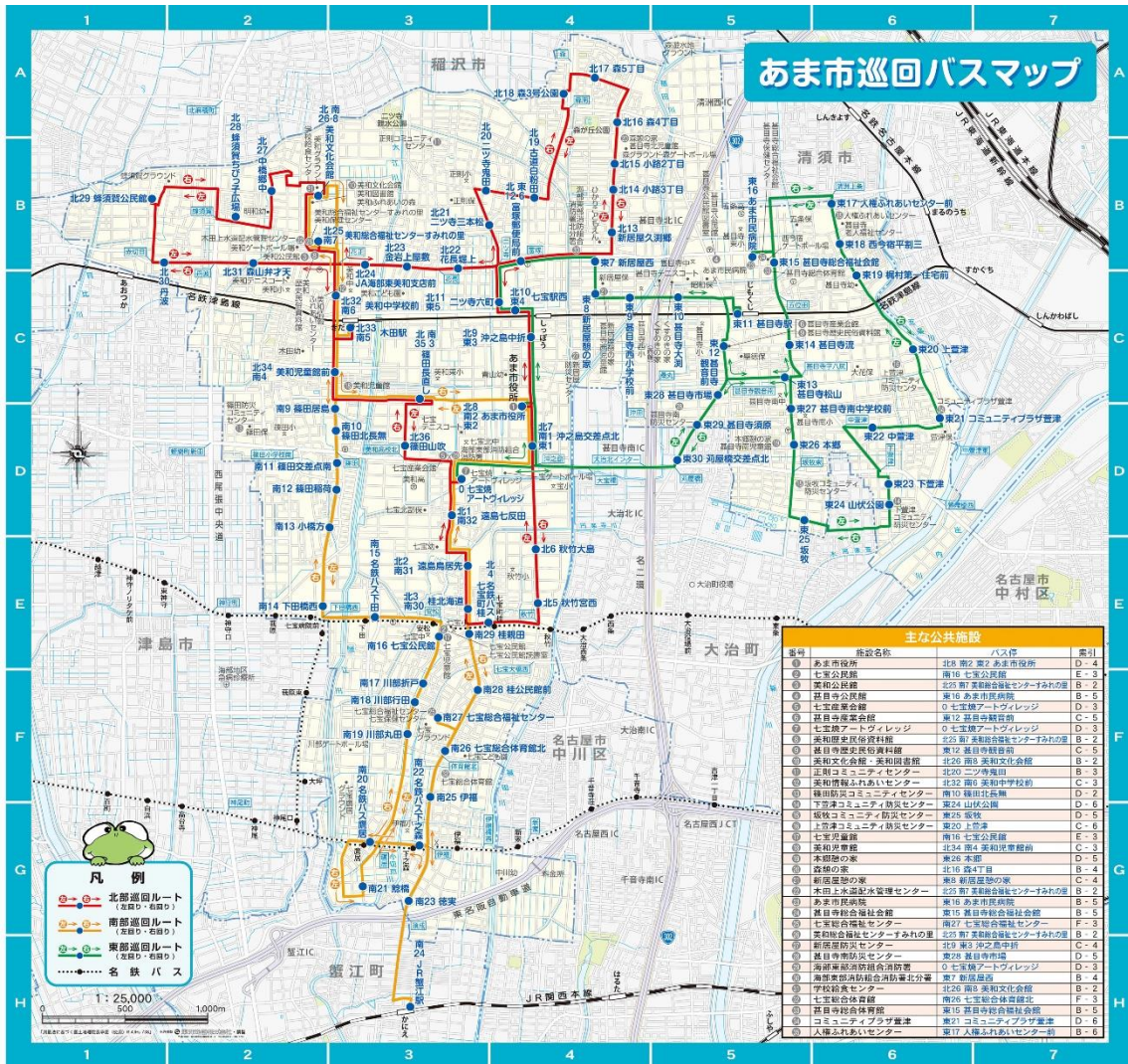
資料：愛西市ホームページより

(2) あま市

○あま市巡回バス

令和5年6月に運行経路・ダイヤを改定。火・水・金曜の週3日、有償運行。

現状、津島市内への乗り入れはないが、名鉄津島線の木田駅・七宝駅への接続があり、名鉄を通じた乗り換え利用は可能。蟹江町内のJR蟹江駅への接続・乗り入れが行われている。



資料：あま市ホームページより

(3) 蟹江町

○お散歩バス

令和3年7月に現行路線に一部改定。無料、祝祭日・年末年始運休、毎日運行となっている。

蟹江町の運行ルートは町内のみとなっているため、津島市ふれあいバスとの直接の接続・乗換利用は難しい。津島市ふれあいバスが JR 関西本線永和駅に乗り入れていることから、JR 関西本線で蟹江駅を経由すれば、蟹江町お散歩バスを利用することができる。



資料：蟹江町ホームページより

(4) 海津市

岐阜県海津市は、令和2年3月に「第2次海津市地域公共交通網形成計画（地域公共交通計画）」を策定し、計画的に交通施策を実施している。

○海津市デマンド交通

事前予約制、ミーティングポイント方式、有償のデマンド乗合タクシー事業を実施。月曜から土曜（年末年始を除く。）の運行。津島市への乗り入れは特にならない。

○海津津島線（津島駅へのバス運行）

令和5年10月から実証実験運行として、ジャンボタクシーを活用した、海津市（駒野駅・市役所）と津島駅を結ぶアクセスバスを実施。大人1乗車300円等の有償運行で、毎日運行している。

海津市内



津島市内



津島駅ロータリー



資料：海津市ホームページより

5. 基礎調査のとりまとめ

(1) 公共交通に関する上位関連計画について

津島市における公共交通に関する上位計画としては、第5次津島市総合計画、津島市都市計画マスタープラン、津島市立地適正化計画がある。

第5次津島市総合計画では、「交通ネットワークの充実」として、“都市機能や生活サービス機能を集約する拠点を中心に、公共交通や道路などで結ぶ総合的な交通ネットワークの充実を図るとともに、まちなかの移動を快適にする歩行環境の整備などを進める”としている。

津島市立地適正化計画では、「まちづくりの方針（交通）」において、“都市拠点や都市機能に誰もがアクセスできる公共交通ネットワークづくり”を進めるとしている。

(2) 津島市内に提供されている移動サービスの実態について

津島市内に提供されている移動サービスは次のとおり。

モード	対象	ルート等（津島市の範囲内）
鉄道	名古屋鉄道	津島線・尾西線
	JR	関西本線（永和駅） ※
路線バス	名鉄バス	津島線・岩塚線
コミュニティバス	ふれあいバス	4ルート
その他	おでかけタクシー	高齢者（75歳以上）、障がい者、妊産婦
	福祉タクシー料金助成事業	障がい者、戦傷病者等
	その他民間サービス	移動制約者向け民間サービス （移動販売車など）

※JR 永和駅は愛西市内。

ふれあいバスの利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響前は順調に増加していたが、一旦減少し、直近では回復してきている。ただし、ピーク時の数字までは回復していない。市の負担額は、利用者数の裏返しで、直近では減少傾向にある。

(3) 主要目的施設の分布状況について

「津島市立地適正化計画」において、医療施設、社会福祉施設、子育て支援施設、教育施設、文化施設、集会施設、商業施設、行政施設の都市機能の分布状況が整理されている。立地適正化計画ではこれら施設を都市機能誘導施設として位置付けており、将来的には都心への誘導を進める計画となっている。

都市機能誘導施設の医療施設・社会福祉施設・子育て支援施設・教育施設・文化施設・集会施設・商業施設のそれぞれ一部施設が、現状、市街化区域の外側に立地しており、市街化区域内から市街化区域の外側にアクセスできる移動サービスの提供が望まれる。

(4) 周辺自治体の実態調査について

愛西市、あま市、蟹江町、海津市における公共交通サービスの実施状況について確認した。

移動サービスに対する対応状況は、蟹江町を除き、隣接市町村に乗り入れている状態で、ネットワークを形成できる要素があるものの、それぞれの地方自治体別に対応内容が異なっている。

移動サービスを協議する「地域公共交通会議」については、津島市、あま市、海津市で設置しているものの、一部の地方自治体では設置していない。

	津島市	愛西市	あま市	蟹江町	海津市
市町村が主体となって乗合事業者へ運行委託している	○		○		○
市町村が無償で運送を行っている		○		○	
市町村が特定の施設への送迎目的で運行を行っている			○		○
隣接市町村に乗り入れている	○	○	○		○
地域公共交通会議の設置	○		○		○
高齢者に対する優遇措置			○		○

資料：愛知県都市・交通局交通対策課「愛知県内の市町村における自主運行バス等の運行状況について」（令和5年5月）より作成

注：海津市については、ホームページより